

平成29年度 大阪府立芦間高等学校 第1回 学校協議会

日時 平成29年7月18日(火) 午前9時40分～午後0時30分
場所 本校1階 校長室

構成員 <協議会委員>
笹山 幸子 元府立高等学校長
藤村 幸博 P T A会長
藤田 俊和 後援会会長
松本 紀容子 守口市立八雲中学校 校長
宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員
山崎 裕也 スクール I E (学習塾) 京阪エリアマネージャー

<事務局>
東崎 浩 教頭
久森 雅代 事務長
甲斐 徹 首席 兼 情報部長
辻 真人 首席 兼 総務文化部長
塩崎 靖子 指導教諭 兼 教務主任
斉藤 衛 生徒指導主事
諸木 忠治 進路指導主事
丸山 清美 保健主事
角山 愉紀雄 第1学年主任
平尾 映子 第2学年主任
岸本千都子 第3学年主任
水嶋 育美 支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長
萩原 英治 校長

配付資料 ○職員研修資料
○授業見学所見
○「勉強」に関するアンケート
○平成29年度学校経営計画
○遅刻集計

内 容

- (1) 授業見学
- (2) 校長挨拶、趣旨説明
- (3) 委員自己紹介
- (4) 学校側の出席者紹介
- (5) 会長選出および会長挨拶
全会一致で藤村 幸博氏を会長に選出
- (6) 報告 平成29年度学校経営計画について
○校長より今年度の運営方針について説明を行った
(授業改善)
 - ・今年度も授業力向上、授業改善を中心に、AL を推進。
 - ・形の上のAL ではなく生徒の思考を促す授業で、場面に応じてAL 的な授業を実施。
 - ・授業見学を実施し、評価表による指導を実施。
 - ・教育センター主任指導主事による研修を実施。
 - ・指導教諭(教務主任)を教務研究会主催の視察(神奈川県)に派遣。(学校経営計画)
 - ・学習習慣の定着に向けて(勉強アンケートについて)
 - ・学校経営計画について
 - ・大学入試「共通テスト」に向けての実用英語検定受験指導について

- (7) 協議 [1] 授業改善に向けての取組みについて
[2] 平成29年度学校経営計画について

[1] 授業改善に向けての取組みについて

- (委員) 指導教諭の授業で板書の使い方が良かった。グループワークも見てみたかった。「看護」のテストはみんな頑張っていた。生徒はみんなよく挨拶をしている。総合学科の売りである少人数授業は良かった。
- (委員) 中学校でも授業改善に取り組んでいる。(京都大学 石井 英真 先生の研修を紹介)
- (委員) 高校ではいい授業の3つのポイントがある。1つ目は、知識、理解を丁寧に教え、未分化な部分にルートを付けるということ。2つ目は、ドリル型で、確認、定着を行うこと。3つ目は、AL型。形だけで入らず積み上げで培われた力を授業の中で定着させるということ。各学校で実態に合わせた目標を設定し、教育計画を作成することが重要。
- (委員) 印象としては非常に熱心だった。最初に目標を伝え、それに沿って勉強していた。学校の授業は入試に関係なくなると授業を聞かなくなるが、英語の授業は、入試を意識した授業であったので生徒は聞くと思う。今年の子らは英語ができるということだが、入学時からそうか。
- (事務局) スタディサポートは例年より良かった。また、英語を選択する生徒が多く、意識が高い。
- (委員) 子供たちが真面目に授業を聞いていて安心した。先生は生徒が理解しているかどうかを確認しながら進めていた。
- (委員) 学校経営計画にある「反転授業」とは。
- (事務局) 普通は学校の授業の後、家庭学習で定着を図るのが一般的だが、家庭学習の後、学校でグループ学習や演習等で定着を図ることが「反転授業」。本校の理科で取り組んでいる。
- (委員) 生徒の意欲につながる改善策として、「学習カレンダー」「朝の学習」とはどんなものか。
- (事務局) 「朝の学習」では、英単語と漢字のテストを週に2回実施している。「学習カレンダー」は1日どれだけ勉強したのかを付けさせている。一定期間の勉強時間の目標を決めてそれに向けて学習させている。
- (委員) 校長は授業見学の際にどのようなアドバイスをしているか。
- (校長) たとえば、生徒が考えるチャンスがあるにもかかわらず、すぐに答えを与えることを指摘した。また、その時間の目標を明記する。振り返りを行う。ことも指導している。
- (校長) 今日の指導教諭の授業のその後はどのようなことをしたのかを話してほしい。
- (指導教諭) グループで0度から330度までを考えたあと、360度から先を考えさせた。最後に振り返りを行った。
- (委員) 毎時間評価を行っているのか。
- (指導教諭) 生徒が自己評価を行っている。
- (委員) 他の教科の先生、特に若い先生方にも参考になると思う。
- (委員) 主体的、協働的な学びはたやすいが、「深い学び」は難しい。先生はどのように取り組んでいるか。
- (指導教諭) 「深い学び」は難しい。定義通りにできるが、違う方法を考えることが「深い学び」につながる。
- (委員) 子供にとって視覚化、焦点化し、見通しを持たせる授業づくりが大切。陶芸の授業では、自然に行われていた。共有することで「深い学び」につながっている。

[2] 平成29年度学校経営計画について

- (委員) 「あいさつ」についての記載がある。知らない人にも挨拶してくれると印象が良い。推進してほしい。
- (委員) 遅刻、授業規律、授業への集中は、主体的か、「やらされ感」か。

- (事務局) ベースとして来たい学校かどうかである。友人、クラブもあるが、その中に勉強があればいいと思っている。遅刻指導は「やらされた感」が強い。やらされているうちに、遅刻しなくなればいいと思っている。勉強について「この授業を受けなければ損」と思うようにならなければいけない。そのために、授業改善を行っている。
- (委員) 自分の子供については、全部のことについて「やらされ感」があるわけではない。生徒によって、ある部分について「やらされ感」ということもある。苦手なところは強制的に引っ張ってくれることも必要。
- (委員) 基本的な生活習慣であるということでは今の子供たちには通用しないのか。
- (事務局) 遅刻してもいいとは思っていない。時間を守ることは大事だとは思っている。
- (委員) 全国学力学習状況調査と学校の規律との相関は高い。
- (事務局) メロディチャイムが鳴っているときには座っていなければいけないということ定着させる。遅刻について良いと思っている生徒は芦間にはいない。
- (委員) 週刊誌によるとこの10年間伸びた高校は規律を守れる学校が多い。授業の前には準備をして待つという姿勢が学力にも影響している。
- (委員) A高校では朝学10分のモジュール授業を行って、結果として遅刻が減り、学力が上がった。相関がある。
- (委員) 中学生が芦間に何を望んでいるか、どう見ているかということ、「芦間高校は勉強が難しい。勉強が出来ないと入れない。」何が魅力かということ「いっぱい選べること。」普通科には迷っている生徒が多いが、芦間に進む生徒は、美術、看護など「・・・たい」と思っている生徒が多い。将来を選び取る点という点から「産社」「総学」に力を入れてほしい。
- (委員) 「自分が決めた選択科目・・・」とあるが、それが自己実現に結びついている。
- (委員) 将来につながる学習が総合学科の魅力になっている。
- (委員) 生徒は科目選択で必然的に自分の将来に向かい合う必要がある。
- (事務局) 「産社」「総学」における発表を通して生徒は学習している。発表に至るプロセス、経験が社会へ出て求められる力につながる。
- (委員) 出身中学校への手紙もその一環か。
- (事務局) 「産社」ではなくHRで呼びかけている。
- (事務局) 総務部と学年が連携して行っている。直接指導に当たる学年の先生方の協力の結果である。
- (委員) 中学校は喜んでいる。行きたいと思っている子供たちにも参考になる。
- (委員) 広報に関係することで、総合学科の特色をどう打ち出すかということが毎回議論されている。塾では、その特色自体より将来の進路につなげて指導をしている。
- (事務局) 芦間高校の特色として美術と看護がよく言われているが、英語にも力を入れていることをアピールしたい。昨年の3年生には1日6時間すべて英語を選択している生徒もいた。

(8) 校長挨拶

- 第2回はオープンスクールを見ていただきたいので11月18日(土)午後を考えている。
- 第3回は2月上旬を考えている。